

事業報告書

2021年4月1日 ～ 2022年3月31日

公益財団法人 藤原ナチュラルヒストリー振興財団

公益財団法人藤原ナチュラリスト振興財団
2021年度 事業報告

I. 事業の状況

1. ナチュラリストの学術研究に対する助成(定款第4条第1項第1号)【公1】

ナチュラリストの分野を動物・非動物に分け、今年度は日本国内の大学、研究施設に勤務するか、又は日本国内に居住する非動物分野の研究を行っている個人又はグループに対し、研究に必要な資金を助成する。

・2022年1月19日開催の理事会において、非動物学70名(植物学37名、地学33名)の申請の中から、2回の選考委員会によって選ばれた24名、総額13,126,000円(植物学12名・6,976,000円、地学12名・6,150,000円)を2021年度の学術研究助成者として承認した。

本助成の当年度予算額は1300万円であったが、助成金の上乗せを行い、助成総額は予算額を126,000円上回った。

尚、理事会後に、地学の助成決定者に辞退者が1名出たことにより、選考委員長並びに分野長と助成金額等の検討を行い、繰り上げ候補者の中から順位1番の1名を繰上助成者とし、地学合計5,990,000円とした。これにより、最終的に合計24名に総額12,966,000円の助成金を贈呈し、予算額は34,000円下回ることになった。

(助成者一覧:別表1参照)

・助成者の研究期間延長について

新型コロナウィルスの感染拡大の影響により、調査地への移動の禁止や所属機関への立入禁止等が続いたことをうけ、2019年度並びに2020年度の希望者には研究期間延長を認めることとしている。但し、2022年3月11日開催の理事会において、延長は2回までと決定し、延長している助成者に通知を行った。現在、2019年度7名(2回目の延長)、2020年度15名が延長し、研究を継続している。

2. 初等中等教育機関におけるナチュラリストの学習支援、並びに教員の研究活動に必要な実験器材や教材等への補助(定款第4条第1項第2号)【公1】

2021年度は、初等中等教育機関の中で、特に高等学校における生物の授業に必要な備品の購入等への補助を、日本国内の高等学校、並びに各国の日本人学校の高等部に対し行う。

補助の内容は、(A)①必要な備品の購入、②日本国内での課外活動に必要な交通費等、(B)古い生徒用顕微鏡の買換えとする。

・2022年1月19日開催の理事会において、36件(A①12件、②4件、B20件)の申請の中から、2回の選考委員会によって選ばれた5件(A①1件・②1件、B3件)の他、各コース次点の申請について検討し、次点3校を追加で助成校として、総額4,679,600円(A①1,394,360円、②232,680円、B3,052,560円)を2021年度の高等学校助成校として承認し、各校に贈呈した。

尚、本助成の当年度予算額は400万円であったが、助成金の上乗せを行い、助成総額は予算額を679,600円上回った。

(助成校一覧:別表2参照)

3. その他この法人の目的を達成するために必要な事業(定款第4条第1項第3号)

(1)2021年度シンポジウム【公2】

2021年11月28日ナチュラリストに関する第13回シンポジウム(テーマ:川の自然史)は、新型コロナウィルスの影響を鑑み、前年度と同様にオンライン形式で開催し、4名の講師による以下の講演を行い、参加者は128名であった。

- ・小林まさ代(埼玉県立自然の博物館) 「荒川が教えてくれる埼玉県の地質」
- ・東城幸治(信州大学) 「日本の動物はどこからきたか? 川の動物が伝える日本列島と生きものの歴史」
- ・片山なつ(千葉大学) 「河川の季節的な水位変化に適応した植物『カワゴケソウ』」
- ・渡辺友美(東海大学) 「展示を通して川を見せる」

(2) 2021年度高校生ポスター研究発表 【公2】

第11回高校生ポスター研究発表を、11月14日に開催した。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より、2020年度は中止としたが、本年度はオンラインで行った。1校1課題として、13校(申し込みは15校、2校は直前に辞退)の高校生によるポスター発表が行われた。事前に接続並びに操作方法等のテストを行ったこともあり、大きな問題も無く終了した。

以下のとおり、最優秀賞1件、優秀賞3件を表彰した。(優秀賞は同点であったため、予定の2件ではなく3件とした。)

最優秀賞

「日本未報告 *Episphaeria* 属菌の同定および生態」

大阪府立園芸高等学校：(2年)上谷悠樹・河井優唯斗 他4名

優秀賞

「ゆらぐ、スマレ属の分類 ～コミヤマスマレ編～」

兵庫県立小野高等学校：(2年・1年)西村悠生・池邊智也 他2名

「クロマルハナバチの二倍体雄は巣に留まることで巣の保温に貢献するのか？」

安田学園高等学校：(1年)青山 庵

「ニホンウナギの絶滅を回避するための2つのサンクチュアリづくり

～特に持続可能な水環境維持に必要な酸素と微生物について～」

福岡県立伝習館高等学校：(2年・1年)坂田由衣・藤本春菜 他14名

(3) 2021年度東京都以外でのシンポジウム 【公2】

2021年10月24日に仙台で第3回シンポジウム(テーマ:海と地球の自然史ー変わりゆく海洋環境から海洋プラスチックごみまで地球の問題を考えるー)を開催した。新型コロナウイルスの感染拡大により、2020年度の予定を1年延期したが、感染の収束はみられないことから、会場参加者は少人数の募集とし、オンライン配信を主とするハイブリッド形式で、以下の4講演とパネルディスカッションを行った。

東北大学並びに東北福祉大学の共催となり、後援は(国研)海洋研究開発機構、自然史学会連合他8学会、(公財)日本自然保護協会、宮城県と仙台市教育委員会、スリーエム仙台市科学館、NHK仙台放送局・東北放送・河北新報社の合計17団体から承認を受けた。

参加者は合計160名(オンライン125名、会場35名)であった。

・原田尚美(海洋研究開発機構) 「北極域の海洋生物の現状と展望」

・鈴木勝彦(海洋研究開発機構) 「広い海から限られた海底資源をどのように探すか」

・土屋正史(海洋研究開発機構) 「海洋マイクロプラスチック汚染問題にどう取り組むか」

・須賀利雄(東北大学) 「海の温暖化 気候変動は未来をどう変えるか」

パネルディスカッション パネリスト:藤井豊展(東北大学)・安中さやか(東北大学/海洋研究開発機構)

司会:井田徹治(共同通信社・財団評議員)

(4) 2021年度フォトコンテスト 【他1】

第8回中学生・高校生フォトコンテストを、7月1日から9月30日までを応募期間として開催し、289名の応募があった。伊藤元己フォトコンテスト選考委員長の「第8回中学生・高校生フォトコンテスト選考経過報告書」を基に、11月11日に電磁的理事会を開催し、以下のとおり最優秀賞1名並びに優秀賞3名、佳作17名を決定した。(優秀賞は同点であったため、予定の2名ではなく3名とした。)

最優秀賞 「ボルダリング」 松本 敬 (中央大学附属高等学校 1年)

優秀賞 「誕生」 池田 美和 (東京都立南多摩中等教育学校 4年)

「新世界への旅立ち」 長友 恵大 (宮崎県立宮崎西高等学校 3年)

「生命線」 廉 明德 (奈良県立奈良高等学校 2年)

佳作 「ティーカップロック」 出川 悠雅 (ニュージャージー日本人学校 中学 1年) 他16作品

又、一般の第13回フォトコンテストは、10月1日から11月30日までを応募期間として開催し、99名の応募があり、伊藤元己フォトコンテスト選考委員長の「第13回フォトコンテスト選考経過報告書」を基に、2022年1月19日開催の理事会において、以下のとおり最優秀賞1名、優秀賞2名、佳作9名を決定した。

最優秀賞 「晩秋の装い」 小田幸司

優秀賞 「渡りの途中」 梅津 潤

「秋空に向かって」 伊藤京子

佳 作 「ミジンコ」 今岡史士 他8作品

各フォトコンテストの受賞作品及びコメント、当財団ホームページに掲載した。全応募作品も掲載済みである。

(5) 財団設立40周年記念事業

新型コロナウイルス感染拡大のため、2021年度まで開催延期となっていた団体を含め、17団体より協力を得た野外観察会等のイベントは全て実施を終えた。

これらのイベント等の総括として予定していた冊子の作成やシンポジウム(意見交換会)に関して、委員会を中心に検討し、作業をすすめている。

意見交換会は5月21日に開催が決まり、協力団体のうち14団体が参加予定である。

冊子については、野外観察会等のイベントの実施報告書の他、過去の助成者の中から18名の研究者の原稿(「私のナチュラルヒストリー研究」を主題としたエッセイ)、フォトコンテストの入賞作品、又、財団の概要や奥野元理事長等の原稿も掲載する予定である。

Ⅱ. 庶務の概要

① 役員会等に関する事項

(1) 理事会 (総理事数9名、定足数5名)

定款第44条により、電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、理事会決議があったものとみなすこととなっております。

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果	出席人数
2021/5/17 (Web会議)	1 2020年度事業報告及び附属明細書承認の件 2 2020年度収支決算書承認の件 3 2021年度高等学校助成選考委員選任(1名変更)の件 4 定時評議員会の日時及び場所並びに目的である事項等について 5 報告事項:理事長及び常務理事より、職務執行状況報告 (その他:各事業委員長と事務局から、2021年度の各事業の開催方法等の報告等。)	全会一致で承認・可決 全会一致で承認・可決 全会一致で承認・可決 出席者全員了承 出席者全員了承	理事9、監事2
2021.6.9(電磁的)	1 理事長、常務理事選定の件	全会一致で承認・可決	理事9、監事2
2021.11.11(電磁的)	1 第8回中学生・高校生フォトコンテスト受賞作品承認の件	全会一致で承認・可決	理事9、監事2
2022/1/19 (ハイブリッド会議)	1 2021年度学術研究助成決定の件 2 2021年度高等学校助成決定の件 3 第13回ナチュラリストフォトコンテスト受賞者承認の件 4 報告事項:理事長及び常務理事より、職務執行状況報告 (その他:財団設立40周年記念事業委員長より、2021年度の各団体のイベント開催状況等の報告並びに次年度の計画等。次年度のシンポジウム及び2023年度の地方シンポジウムのテーマ等の相談。高校生ポスター研究発表の開催方法の検討。事務局から、次年度の選考委員推薦依頼及び事業計画等の策定にあたっての方針等の確認。)	全会一致で承認・可決 全会一致で承認・可決 全会一致で承認・可決 出席者全員了承 出席者全員了承	理事9、監事2
2022/3/11 (Web会議)	1 2022年度事業計画承認の件 2 2022年度収支予算書承認の件 3 2022年度学術研究助成並びに高等学校助成選考委員選任の件 4 東京シンポジウムのテーマについて (その他、学術研究助成に関して、研究期間延長の回数、応募要領追記事項についての検討。高等学校助成の古い生徒用顕微鏡の買換え補助に関して、顕微鏡を財団で数種類を指定するかどうかの検討。40周年記念事業委員長より、意見交換会と冊子の準備状況についての報告。事務局より、各委員会開催の依頼。)	全会一致で承認・可決 全会一致で承認・可決 全会一致で承認・可決 全会一致で承認・可決 出席者全員了承	理事9、監事2

(2) 評議員会 (総評議員数10名、定足数6名)

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果	出席人数
2021/6/8 (Web会議)	1 2020年度事業報告並びに附属明細書報告の件 2 2020年度収支決算書承認の件 3 理事候補者承認の件 4 報告事項:理事長及び常務理事より、職務執行状況報告 (その他:事務局より、2021年度の各事業開催方法等についての報告)	全会一致で承認・可決 全会一致で承認・可決 全会一致で承認・可決 出席者全員了承 出席者全員了承	評議員10

(3)選考委員会(学術研究助成)

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
2021/6/25 (ハイブリッド会議)	1 選考委員長の選出 2 応募要領及び申請書について 3 審査の方法 4 評価の方法	田中伸幸氏(国立科学博物館)を委員長に選出。申請案件を各選考委員によって3つの評価項目に付き4～1の評点を記し、総合評価としてA～Dの評点を記入した評価表を作成し、これらをまとめた総合評価表を基に、選考委員会において最終決定することを承認。
2021/12/23 (ハイブリッド会議)	2021年度学術研究助成(非動物学)候補者選定の件	候補者として24名(植物学・地学各12名)総額13,126,000円(植物学6,976,000円、地学6,150,000円)を選考した。又、決定後辞退があった場合を考慮し、繰上げ候補者7名(植物学4名、地学3名)を選考した。

(4)選考委員会(高等学校助成)

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
2021.5.28	1 選考委員長の選出 2 募集案内及び申請書について 3 審査の方法 4 評価の方法	本橋晃氏(雙葉中学・高等学校教諭)を委員長に選出。事務局より助成総額と各助成金額と助成内容(A①備品・②日本国内での課外活動に必要な交通費等の補助・B生徒用の古い顕微鏡の買換え補助の3通り)は昨年度と同様という説明がされた。申請案件を各選考委員によって、A①と②は3つの評価項目の評点(5～1点)、総合評価(A～D)、優先順位を記入した評価表を作成、又、Bについては備品台帳を確認の上、古いもの・地域性を考慮した上で優先順位を記入した評価表を作成し、これらをまとめた総合評価表を基に最終決定することを承認。
2021/12/3 (ハイブリッド会議)	2021年度高等学校助成候補校選定の件	候補校として5件(A①1件・②1件・B3件)と次点3件を選考した。委員会後に各候補校より見積書の提出を受け、検討を行い、理事会において次点の3校を追加で候補校とすることが決定し、選考委員の承認も得た。これにより、8件(A①2件・②2件・B4件)を候補校とし、総額は4,679,600円となった。

選考委員(学術研究助成):6名

学術分野	氏名	就任年月日	現 職	備考
植物学	田中 伸幸	2021.4.1	国立科学博物館 植物研究部 グループ長	委員長
〃	河地 正伸	〃	国立環境研究所 生物多様性領域 生物多様性資源保全研究推進室 室長	
〃	御巫 由紀	〃	千葉県立中央博物館 資料管理研究科 科長	
地 学	狩野 彰宏	〃	東京大学大学院 理学系研究科 教授	
〃	對比地孝亘	〃	国立科学博物館 地学研究部 研究主幹	
〃	矢島 道子	〃	東京都立大学 理学部 非常勤講師 (財団理事)	

選考委員(高等学校助成・旧備品助成):3名

氏 名	就任年月日	現 職	備考
本橋 晃	2021.4.1	雙葉中学校・高等学校 教諭	委員長
長尾 嘉崇	〃	東京都立八王子東高等学校 教諭	
三堀 春香	〃	東京大学教育学部附属中等教育学校 教諭	

② 職員に関する事項

(2022年3月末日現在)

職 名	常勤・非常勤	氏 名	採用年月日	担当事務	備考
職 員	非常勤	藤原 基美子	1980年9月28日	事務局長	
職 員	常勤	井石(宮澤)亜紀	2015年4月1日	一般事務	

③ 許可、認可、承認、証明等に関する事項

該当なし

④ 契約に関する事項

該当なし

⑤ 寄付金に関する事項

該当なし

⑥ 内閣府公益法人(行政担当)への届出

提出年月日	届出内容
2021.6.28	2020年度 事業報告等
2022.3.30	2022年度 事業計画書等

* 役員等に関する変更届は、全員再任の場合は届出不要。

< 附属明細書の作成について >

上記の事業報告に関して、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定されている附属明細書により、その内容を補足すべき重要な事項はありませんので附属明細書は作成しておりません。

2021年度(第30回)学術研究助成 助成者一覧

助成金額 合計12,966,000円

[植物学] 12名 (6,976,000円)

No.	氏 名	研 究 課 題	助成金
1	新井 嵩博	全ゲノム解析による世代判別マーカーの開発と褐藻アミジグサの胞子体／配偶体比から解明する生殖戦略	60万円
2	伊藤 浩二	次世代シーケンス技術を活用した絶滅危惧種サドルマユリ及びその近縁種の系統関係の解明	70万円
3	倉田 正観	オオバナミツバフウロの分類学的再検討	66万円
4	厚井 聡	極限環境に生育するカワゴケソウ科植物の生活環の解明	50万円
5	齊藤 由紀子	沖縄県の植物相解明に向けた島嶼調査およびポータルサイト整備	77.6万円
6	高野 智之	新規培養株を用いた接合藻類ホシミドロ科ホシミドロ属及びヒザオリ属の属内系統関係の解明	41.5万円
7	林 尚輝	最終氷期の大隅諸島および大隅・薩摩半島南端部における照葉樹林の分布	50万円
8	福井(坂田)歩美	千葉県における海岸生広義ダイダイゴケ属地衣類の分類解明－ <i>Orientophila</i> を中心に－	65万円
9	村上 将希	植物における海洋島進出に伴う分散能力の段階的喪失過程の検証	58万円
10	山崎 裕治	希少緑藻類タテヤママリモの保全生態学的研究	70万円
11	吉岡 夢生	鳥に付着し分散する珪藻：微細藻類の新たな移動メカニズムの解明	35万円
12	李 忠建	複雑な染色体の多様性を持つ種複合体ツユクサの種生物学的実態の解明	55万円

[地学] 12名 (5,990,000円)

No.	氏 名	研 究 課 題	助成金
1	青木 かおり	過去1万年間の沿岸堆積物からみる陸奥湾と下北半島の古環境変遷	60万円
2	伊左治 鎮司	銚子層群(前期白亜紀)の微小巻貝類の多様性とその生態を探索	33万円
3	宇津川 喬子	チャート砂礫の供給源推定を軸にした常磐地域における最終間氷期以降の古地理の復元	52万円
4	大村 文乃	中生代海洋変革で頭足類の捕食様式はどのように変わったか？化石頭足類の捕食様式を探索基盤の構築	60万円
5	北畠 京祐 (「祐」正式には示偏に右)	東京湾干潟における令和元年房総半島・東日本台風による底質環境の変動パターンへの復元	67万円
6	佐藤 和平	火山噴火に伴う土砂移動が下流河川にもたらす影響－河畔砂丘の形成をめぐって－	42万円
7	清水 道代	日本列島の温帯林成立期化石群集の植生構造解明：鳥取県－岡山県境の伯耆植物群を例に	49万円
8	杉原 薫	北西太平洋における氷期・間氷期サイクルに伴う造礁サンゴ群集変化の解明	47万円
9	千葉 友樹	古東京湾の湾口部における海峡の形成と埋積過程：貝類化石群集・化石の産状・堆積相の統合解析	50万円
10	中西 裕也	第二次世界大戦前の博物・鉱物教科書における資源の取り扱いに関する研究	43万円
11	葉田野 希	中部日本における最終氷期以降の陸上土壌と湖沼生物一次生産性の変動	60万円
12	松井 浩紀	漸新世における有孔虫化石の殻サイズ解析：示準化石としての有用性を評価する	36万円

2021年度（第30回）高等学校助成 助成校一覧表

助成金額 合計4,679,600円

【A① 備品助成】

No.	氏名・学校名	生徒数	品 名
1	北原 義大 鹿児島県立霧島高等学校 全日制課程	1年 33名 2年 38名 3年 4名 クラブ活動その他0名	ヤガミ 双眼実体顕微鏡 YC-40S 22台 木製格納ケース無しタイプ 直読マイクロメーター付 515,460円
			合計 515,460円
2	高柳 真里子 富山県立魚津工業高等学校 情報環境科全日制課程	1年 39名 2年 36名 3年 39名 クラブ活動その他5名	1.高圧蒸気滅菌器(平山製作所) HG-50II LB 100V 20A 金網カゴ2個附属 2.電源用プラグ 3.荷造り送料 4.電源工事 709,500円 4,400円 55,000円 110,000円
			合計 878,900円
			A① 合計 1,394,360円

【A② 課外活動に必要な交通費等の補助】

No.	氏名・学校名	生徒数	品 名
1	藤津 亜季子 埼玉県立熊谷西高等学校 普通課程	高校1-3年生 10名程度	1.交通費 ・レンタル自転車 60,000円 (1日)1000円×12人×5回 ・高崎線 籠原～深谷 22,680円 (往復)378円×12人×5回
			合計 82,680円
2	谷脇 鉄平 学校法人大阪学園 大阪高等学校 普通課程	高校1・2年生 10名程度 引率教員2名	1.移動費(生徒10名分) ・新幹線等 JR新大阪～JR新高岡 150,000円 ・レンタカー 氷見市内移動(2泊3日×1台×2回) 30,000円 2.宿泊費(生徒10名分) 氷見市内 1泊10000円×1泊×10名 100,000円 3.コロナ対策費 マスク・フェイスシールド・消毒薬等 20,000円 これらの一部として
			合計 150,000円
			A② 合計 232,680円

【B 生徒用顕微鏡の買換え補助】

No.	氏名・学校名	生徒数		品 名
1	富塚 裕美 北見藤高等学校 全日制課程	1年 120名 2年 120名 3年 138名		1.長焦点生物顕微鏡 (ケニス)JLS-D400 :20台 880,000円
				合計 880,000円
2	大矢 友樹子 大阪府立槻の木高等学校 全日制課程	1年 240名 2年 240名 3年 57名		1.生物顕微鏡ウィングブルー (ナリカ) WB600 :20台 996,000円
				合計 996,000円
3	深井 有紀 長野県屋代高等学校 全日制課程	1年 280名 2年 50名 3年 0名		1.顕微鏡 (島津理化)SGT-600RLN :16台 または、別メーカー同等クラス 714,560円
				合計 714,560円
4	石井 亜希穂 神奈川大学附属高等学校 全日制課程	1年 211名 2年 202名 3年 219名		1.生物顕微鏡 (ケニス) JLB-600-CN :12台 462,000円
				合計 462,000円
				B 合計 3,052,560円